みんなのひろば

▲大輪のぼたんが咲き誇る多聞院では、毘沙門様の化身である寅に願いを請うお祭り「寅まつり」が行われました。

５月１日㈯／多聞院
（撮影：市民カメラマン・木村清貴）

▲晴天のなか「第59回所沢市子ども写生大会」が開催されました。子どもたちは、楽しい乗り物や新緑の美しい風景を色鮮やかに描いていました。

４月24日㈯／西武園ゆうえんち

▲元町地区で開かれた、まち開き記念イベント「ハーティア♡フェスタ」。ステージではキッズダンスなどが行われました。

５月９日㈰／中央公民館など
（撮影：市民カメラマン・佐藤清一郎）

▲見事な勝利を飾った埼玉ブロンコスのホーム最終戦。「みんなが選ぶベストプレーヤー賞」の栄誉を手にした清水太志郎選手のシュート！

４月25日㈰／所沢市民体育館
（撮影：市民カメラマン・八木豪彦）

目指せ 低炭素化！ 温暖化をとめよう

「太陽のエネルギーを利用しよう」

私たちは、さんさんと輝く太陽の恵みを受けて暮らしています。太陽の光は、地球を明るくしたり、暖めたり、植物を育てたりしています。太陽光発電システムは、発電時に地球温暖化の原因となるCO_2を出さない地球にやさしいエネルギーです。太陽のエネルギーを有効に活用することは、低炭素社会に向けて重要なテーマといえます。

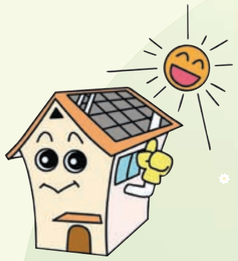
◆太陽のエネルギーはどれくらい？

地球上に到達する太陽のエネルギーは、快晴時には１㎡あたり約１kWあります。もしも地球上に降り注ぐ太陽のエネルギーを100％利用できるようになると、世界の１年間のエネルギー消費を約１時間で賄うことができると言われています。そのうえ、太陽の光は枯渇することのない無限のエネルギー資源です。

◆家庭で利用できる太陽のエネルギー

太陽光発電は、太陽のエネルギーを吸収して電気に変える発電システムです。日本中どこでも利用可能で、設置する場所の広さに合わせて規模も選べます。発電システム設置時の補助金制度があるほか、電気事業者による太陽光発電の余剰電力を買い取る制度もあります。

太陽の熱を集めて給湯や暖房に利用する太陽熱利用には、太陽熱温水器・ソーラーシステムなどがあります。太陽のエネルギーを効率的に利用できるシステムで、風呂、シャワー、キッチンなどへの給湯のほか、暖房や温水プール、温室の加温など、幅広い用途が可能です。



所沢市には、住宅用太陽光発電システムに補助制度が、太陽熱温水器・ソーラーシステムには奨励制度があります。

所沢市はチャレンジ25キャンペーンに参加しています
問い合わせ　環境総務課
☎2998-9133　FAX2998-9394
チャレンジ25 未来が変わる。日本が変える。

はっらっ ところ 野老っ子

地域の伝統を支える「重松流祭囃子」

小峯　勝次さん（星の宮囃子連）

「ドンドン、ドドドン、ピーヒョロロ…」どこからか聞こえてきた祭り囃子の音色に、思わず体が反応してしまったことありませんか？地域のお祭りでひかれる山車に乗り、笛や太鼓が掛け合いにぎやかに演奏される祭り囃子。その祭り囃子の流派のうち所沢で一番の主流が重松流です。『重松流祭囃子』は、所沢で生まれ育った古谷重松が編み出し、所沢や西多摩地方に伝えました。今回はその古谷重松生誕180周年を記念して行われる『重松流サミット2010』の実行委員長で、重松流祭囃子保存会・星の宮支部の発起人でもある小峯勝次さんをご紹介します。

現在市内には15の重松流祭囃子保存会の支部がありますが、かつて小峯さんの地元星の宮地区には支部がありませんでした。しかし、昭和52年「星の宮も重松流祭囃子で活気づけたい」との熱い想いを抱いた当時の町内会長さんをはじめとする10人で、『星の宮囃子同好会』が発足します。その発起人の一人として名を連ねた小峯さんは、当時最年少の24歳。「口伝で笛を教わったのですが、はじめは全く音が出ませんでした。それから人けのないところで毎日夢中になって練習しました」と当時を振り返ります。

３歳から80歳近い方たちまでが一緒に演奏する祭り囃子は、伝統芸能を伝え継ぐとともに、地域での世代間の交流が自然と行われる貴重な機会にもなっています。小峯さんが指導した子どもたちは100人近く。「伝統芸能『重松流祭囃子』を未来の世代に伝えていくことが私の役割」と力強く語ります。

こうして長らく地域で『重松流祭囃子』を受け継いできた小峯さんたちの「伝統芸能といえども、時代に即したあり方を模索していくことが大切」という強い気持から実現したのが、『重松流サミット2010』です。「長い歴史の中でも所沢市内外の重松流の団体が一堂に会するのは初めてのこと。『重松流祭囃子』の発祥地、所沢で行われる今回のサミットを是が非でも成功させたい」と小峯さんが意気込むサミットは、６月６日㈰に地域の新しい文化発信地、中央公民館で開催します。地域をつなぎ、地域の中で大切に受け継がれてきた、所沢生まれの伝統芸能『重松流祭囃子』。その歴史に新たな１ページを刻む日、あなたも祭り囃子の音、じっくりと聴いてみませんか？

▲熱心に子どもたちを指導する小峯さん

誰でもエッセイ

◆テーマ「所沢の名物は」◆

所沢焼きだんご

上山口　山口満子

平成４年の春に、ここ所沢の上山口に居を構えたころのこと、散歩に行くと出かけた夫が「土産だ」と紙袋を下げて帰ってきた。開けてみるとおいしそうな焼きだんご。「所沢の名物なんだ」と、小さな焼きだんご屋さんのおじさんの話。その米粉を丸めてお醤油をまぶし焼いた素朴な味にほれ込んだ。

あれから夫は千の風に舞ってしまったが、先ごろ近くの商店の棚に一本百円で売っていたのを見つけた。二本買い、一本は仏壇に供え一本口にした。変わらぬ味は昔ながらの焼きだんごで、口の中がほっとした。

夏の所沢名物「西武園花火大会」

松が丘　工藤直子

小学生のころ、夏になると西武園の花火を見に近くの公園へ行った。兄と弟の３人で、公園の中で一番よく見える場所はどこか競うように探した。大抵兄が一番に見つけ、私と弟に教えてくれた。母が一緒のときもあったが、母は花火を見るより近所の人と話をするのに夢中だった。父と一緒に公園で見た記憶はほとんどない。

ある時「西武園の花火を見に行かないか」と父に誘われ、西武園駅近くまで連れて行ってもらった。父が見つけた場所は、公園で見るよりもずっと大きく花火が見えたが、あまりにも音が大きく、耳と心臓がおかしくなりそうだった。だが「よく見えただろう」と満足そうに聞く父に、黙ってうなずくしかなかったことをいまだに覚えている。

ところざわ 歴史まめ知識 ❷

所沢市域にかかわる歴史的事項を50音順に紹介しています。今号は『い』です。

磯谷有技　幕末・明治期の刀工で剣術家。三河国岡崎藩（愛知県岡崎市）の家臣で刀工の家に生まれ、武蔵流を習得して藩主ならびに藩士の子弟の指導にあたりました。幕末期に父とともに江戸勤番となり、城村（市内城）出身の娘と結婚。維新後は城へ移住し、刀剣を製作するかたわら近隣の子弟に武芸を教えました。門弟が城地区に建てた「有技磯谷先生之碑」は、現在は柳瀬民俗資料館（亀ヶ谷）にあります。

板碑　中世に供養を目的として建立された塔婆。秩父地方で産出された青石（緑泥片岩）が用いられ、青石塔婆とも呼ばれます。板状の形で、中央に仏をあらわす種子（梵字）や仏像を刻み、その下に供養銘などを記しているものが多く、市内では約300基が確認されています。最古は山口来迎寺にある建長８年（1256）のもので、武蔵七党の丹治泰家が亡母の追善のために建立したものです。このほか月待など当時の民間信仰の様子がうかがえる板碑もあります。

▲来迎寺の建長８年板碑

岩崎の能獅子舞　市内山口の瑞岩寺で毎年10月第２土曜日に行われる獅子舞です。能と呼ばれる楽器が用いられます。江戸時代の初め岩崎村の領主宇佐美助右衛門が大坂冬の陣の帰途に京都で３頭の獅子頭を求め、村の若者に稽古させたのが始まりといいます。１頭の牝獅子をめぐり２頭の牡獅子が争うストーリーで、やがて争いを止め平和に舞い遊ぶというもの。岩崎獅子舞保存会を中心に継承されています。

問い合わせ　生涯学習推進センターふるさと研究
☎2991-0308　FAX2991-0309

▶市内で撮影した写真（撮影日・場所・コメント）▶エッセイ次のテーマは『出産』▶締切６月７日㈪▶掲載者には記念品を進呈▶文章は添削あり▶投稿写真・原稿　は返却しません▶住所・氏名・年齢・電話番号を明記し〒359-8501広報課「みんなの広場」係へ郵送または ✉hiroba@city.tokorozawa.saitama.jp